

松崎市長新春インタビュー「小浜を研ぐ！諸施策の総仕上げ」

北陸新幹線・全区間のルートが決定され、全線開業に向けて大きな一歩を踏み出しました。「新たなまちづくり元年」と位置づけた平成29年、そして明るく未来に向けた取り組みを、松崎市長が語る――

市長 私は就任3期目を諸施策の総仕上げと位置付けています。「小浜を研ぐ」を公約に掲げ、①産業をみがく、②観光をみがく、③文化・教育をみがく、④生活をみがく、⑤行政をみがく、の5つの公約を定め、その実現のための各種施策を進めています。

「産業をみがく」について

市長 働きやすい環境の創造と雇用の場の創出については、人口減少問題を考える上で、重要な問題の一つであると捉えています。昨年は、黒駒区に2社のレタス栽培の企業が進出するに当たり、関係機関と協定を結び、新たな雇用の場を創出することができました。小浜を代表する伝統産業の「若狭塗箸」につきまして、平成27年度以降、積極的に海外にPRを行っています。海外販路の重要性は今後ますます高まることが想定されますので、新たな販路拡大につながることを期待しています。



「鯖を愛するまち」を宣言し、「株式会社鯖や」と市間で連携協定を締結

農業対策につきましては、宮川地区の農業の取り組みが評価され、11月に農林水産省の「豊かなむらづくり表彰事業」で農林水産大臣賞を受賞するといううれしい出来事がありました。宮川地区に続いて、松永地区や内外海地区をはじめとする各地でも今後の農業を考える動きが進んでおり、市内全域に広がりつつあります。「鯖、復活」プロジェクトとして取り組んできた、養殖サバの出荷が6月から開始され、多くの反響がありました。また、3月には小浜のサバの文化を誇りとし、未来に継承していくために、

「鯖を愛するまち」を宣言しました。

「観光をみがく」について

市長 北陸新幹線は3月に大阪までの全区間が決定しました。本市では、早い段階で新しいまちの将来ビジョンを明らかにする「新まちづくり構想」の策定に取り組み、開業に向けた万全の体制作りを進めていきます。

観光局を中心とする「OBAMA食と農の景勝地実行委員会」が農林水産省が認定する「農泊食文化海外発信地域（SAVOR JAPAN）」の認定を受けました。これは、地域の食とそれを生み出す農林水産業を核として訪日外国人を中心とした観光客の誘致を図るために創設されたものです。今後は、「小浜の暮らし方」をテーマにしたプログラムを売り込むことで、訪日外国人を中心とした観光客の誘致を図っていきたく考えています。

「文化・教育をみがく」について

市長 小浜美郷小学校の建設につきましては、コンクリート工事や屋根工事などがおおむね完了し、今年の秋ごろ

しており、30年度から工事用道路などの工事に取りかかると聞いています。市としても、早期完成を目指して、県と連携しながら取り組んでいきます。

地域防災力の強化については、地域防災計画の改定などを踏まえ、避難が必要な人に早く行動していただくよう、天候の穏やかな明るうちに各地区最低1カ所の避難所を開設することにしました。また、避難情報の発令について、対象区域を細分化し、きめ細かい情報発信をすることにしました。



8月から10月にかけて台風が小浜に接近し、多くの被害をもたらした

「行政をみがく」について

市長 広域ごみ焼却施設については、若狭町以西の4市町の枠組みで、「若狭広域行政事務組合」が事業主体とな

り協議を行なっています。また、老朽化が進んでいる若狭霊場の次期施設についても、本市以西の3市町の枠組みで、事業スケジュールの決定などに向けた検討を重ねているところです。昨年4月から、市税および上下水道料金がコンビニエンスストアで納付できるようになりました。今後も納税環境の整備に努めていきたいと考えています。

今後の抱負は

市長 本市では、人口減少が進んでおり、交流人口・定住人口を拡大することが喫緊の課題です。このような中、「北陸新幹線小浜・京都ルート」の決定は千載一遇のチャンスであり、これらの政策の実現を踏まえ、魅力あるまちづくりにつなげていきたいと考えています。小浜の資源をさらに研ぎあげ、最大限に活用することで、「わがまち小浜」を活力ある、笑顔あふれる住みよいまちにするとともに、市民の皆様が小浜を愛し、夢や希望を持てるまちづくりに全力で取り組んでいきます。



聞き手／坂口 みゆき アナウンサー (チャンネルO・12月20日)

新 幹線の全線開業を見据え、魅力あるまちづくりを

業に取り組んでいます。「鯖街道」というブランドを確立させ、本市の御食園として食文化の再確認と、鯖街道ブランドを活用したまちづくりにつながるものと大いに期待しています。

福井しあわせ元気国体およびしあわせ元気大会が、9月のビーチバレーボールを皮切りにそれぞれ開催され、10月には精神障がい者の選手が出場するバレーボールも開催されます。この50年に一度のビッグイベントを、市民総参加のもと、喜びと感動を共有できる魅力ある大会にしたいと考えています。

「生活をみがく」について

市長 本市が推進している協働のまち

づくりについて、平成30年度からは市内全地区でまちづくり協議会によるまちづくりが行われる予定です。より多くの地域住民が参画して、取り組むことで、地域・住民主体のまちづくりがさらに進むものと考えています。高齢者支援につきましては、昨年4月に地域包括支援センターを1カ所増設して、より身近な地域で相談できる体制を充実しました。高齢者が住み慣れた地域で安心して元気に生活ができるよう、介護保険事業をはじめとした、さまざまな高齢者福祉施策に一層、積極的に取り組みたいと考えています。大手橋・西津橋の整備につきましては、平成24年度に県において着手され

小浜を活力ある、笑顔あふれる住みよいまちに